

巻頭言

第73回日本医学放射線学会総会を開催するにあたって

第73回日本医学放射線学会総会 会長
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科放射線医学 教授
金澤 右



金澤 右 先生

2014年4月10日(木)～4月13日(日)の4日間、パシフィコ横浜にて第73回日本医学放射線学会総会を開催いたします。大会長を務めさせていただきますことを大変光栄に存じます。第70回日本放射線技術学会総会学術大会、第107回日本医学物理学会学術大会、2014国際医用画像総合展と同時にJRC2014として開催いたします。今回のメインテーマは「Face to Faces, Face to Communities, Face to the World ～向きあう、つながる、そして広がる」であり、私たちと私たちを取り囲む人、社会、そして世界について改めて意識した大会にしたいと思っております。放射線医学に関わる私たちの環境は主としてITの進歩に伴い激変しています。それは、あきらかな進歩ではありますが、一方では従来思いもよらなかった問題も生まれています。また、地球温暖化や自然環境破壊、2011年3月11日に不幸にして経験した東日本大震災などの自然災害、世界各地での紛争・戦争など社会が抱える問題はつきる事はありません。私たち放射線医学に関わる者達が、このような中で学会活動を通じていかに社会に貢献していくかを真剣に考え取り組むことはとても大事だと思っています。

同時に、放射線科医、そして放射線診療に関わる医療関係者、企業の方々が一堂に会する貴重な機会であり、皆様に参加して良かったなと思っていただける質が高く楽しい内容の学会にいたしたいと思っております。



JRS2014 ポスター

1. はじめに

日本医学放射線学会は2013年10月現在で8904名の会員を有する世界でも有数の規模を誇る放射線医学会です。1941年に第1回日本医学放射線学会が京都で開催されましたが、その際の参加者はわずか二十数名に過ぎなかったそうです。現在総会には5000名に及

ぶ参加者がおり、JRC全体としては参加者が優に1万名を超えることを考えるとまさしく隔世の感があります。先人の努力の歴史の積み重ねが現在の繁栄につながったことは間違いのないことと思います。日本医学放射線学会は、わが国の放射線診療の中核を担ってきただけでなく、最近では海外の放射線医学諸学会との

交流を通じて世界にもその存在をアピールしつつあります。このような学会の「国際化」については、第71回総会会長の栗林幸夫教授(慶應義塾大学)、第72回総会会長の本田浩教授(九州大学)が、スライドの英語化や海外講師の招聘などで努力を重ねられてきました。今回担当させていただく私たちも抄録の英文化、英語口演発表の推奨などさらに工夫をしていきたいと思っております。

メインテーマ「Face to Faces, Face to Communities, Face to the World ~向きあう, つながる, そして広がる」にはこのような国際化を意識するとともに、もう一度私たちが医療の原点に立ちみようというメッセージを込めました。放射線診療領域では、近年急速に広がってきた遠隔画像診断に代表されるITの進歩の中で、患者さんやそのご家族、一緒にチーム医療を形成する診療放射線技師、看護師等の医療従事者との人間関係、院内での他科との協力体制がやや希薄になっている傾向があるように思います。「医は仁術」といいますが、「人」なくして医療は成り立たず、放射線診療ももちろん例外ではありません。これからのわが国の放射線診療を支えていく若い放射線科医が、最先端の放射線医学を学び、成果を発表するとともに、「人」、「社会」そして「世界」に思いを巡らせてくれる学会になってくれたらと思っております。

2. 会期ならびに会場

2014年4月10日(木)～13日(日)の4日間、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜にて第73回日本医学放射線学会総会を開催いたします。

今回は「国際化」を意識して、海外からの参加者がスムーズに会に溶け込むことができますように、会場内表示の日英併記や抄録集の案内の日英併記、コンシェルジュの配置など従来と異なる点がいくつかあります。もちろん、大多数を占める国内からの参加者の皆様にも不自由なく会を楽しんでいただけるような会場環境づくりに努力する所存です。会場のIT環境については、年々整備されているところではありますが、会場内のデジタルサイネージ放映の充実、ネットワークを使ったスマート端末でのプログラム等の検索機能の向上、フィルムインタープレーションにおけるDICOM画像配信などさらに進んだ環境を提供できると思っております。

全体的なプログラム構成、展示ホールAに受付を配置することなどについては、従来と大きな変更はございません。また、会場の構成もほぼ従来通りで行われる予定ですが、CyPos 閲覧会場は国立大ホールのマリノロビーとなります。従来の安心感を提供するとともに、より快適な会場環境を提供できるようにしたいと思っております。

3. 参加登録

参加登録費は会員13000円、非会員20000円、学生1000円です。

4. プログラムの内容

発表形式は、従来同様に、一般口演、CyPos、実機展示、教育展示としています。日本医学放射線学会、日本放射線技術学会、日本医学物理学会の合同シンポジウムは、「より安全で確実なIVRを目指して」、「つながる人材育成とスペシャリスト養成」、「医療被ばくの低減と正当化・最適化のバランス」の3つを予定しております。このうち「より安全で確実なIVRを目指して」では、IVRに関わる多職種の観点から発表をしていただくとともに、ロボットIVRの開発など興味ある話題提供があります。また「つながる人材育成とスペシャリスト養成」は日本サッカー協会とのジョイントシンポジウムになっております。



JRC2014 ポスター

特別講演は、JRC2014としては、京都大学iPS細胞研究所副所長の戸口田淳也教授からiPS細胞についてご講演をいただく予定です。私たち放射線診療に関わる者が、iPS細胞について今知らなくてはならないことについてご教授いただく予定です。また、JRS2014の特別講演は金沢大学前教授の松井修先生にお願いしております。肝臓の画像診断研究で、わが国のみならず世界のトップを走ってこられた松井先生に自らの研究人生を振り返っていただき、その足跡を私たちの今後の診療、研究の貴重な糧とさせていただきます。

特別企画として「How to improve your English」を設けました。これは医学放射線学会の国際化に備えた極めて実学的内容で、放射線診療領域での英語の使い方、学会発表の仕方などを学ぶ場としております。

私自身の思い入れから、JRS特別シンポジウム「臨床研究」を企画させていただきました。政府のNIH構想に示されるように、わが国の医学医療はドラスティックな変化が求められており、なかでも臨床研究体制の充実化は焦眉の急となっています。多くの会員に臨床研究について興味を持っていただきたいと思っております。同様にシンポジウム「医学教育の現在と未来を考える ～ The present and future of medical education～」も私自身の思いから企画させていただきました。内容としては、わが国の放射線医学だけでなく、米国の実情や医学教育全体の視点からのお話も含んでおります。教育はすべての出発点であり、多くの会員に参加していただきたいシンポジウムと思っております。

そのほかJRSシンポジウムとして「認知症の画像診断 update」, 「肺癌局所治療の現状」, 「Image-guided ablation」, 「限局性前立腺癌の治療戦略」, 「臓器の画像所見から全身疾患を診断する」, 「心臓CT/MRI update」, 「肝胆膵画像診断 update」を、Focus meetingとして「ATS/ERS IIPs consensus classification 2013 ～その変更点と今後の問題点～」を企画しております。これらは、私どもの教室員を中心に企画いたしましたが、いずれも現在非常に興味をひくテーマです。シンポジスト、司会は斯界の一流の先生にお願いしておりますので、きっと参加者には満足いただける内容になると思います。

昨年の大会では本田会長のお計らいにより外国人

講師が多数参加され、国際化への大きな弾みになりました。今回も前回同様に30名程度の外国人講師に来ていただく予定です。Overseas lectureシリーズとしてご講演いただく予定ですが、なるべく一般演題やシンポジウムのテーマと連動したプログラムとして、気軽に英語で放射線医学の勉強をしていただけの機会としたいと思っております。私たちの学会の場において、英語が決して特殊ではないという雰囲気が出せればうれしいと思っております。

教育講演、研修医セミナー、フィルムインタープリテーションについても従来通り企画しております。教育講演には専門医認定あるいは更新のための講習も含まれております。フィルムインタープリテーションでは前述のように会場でのDICOM画像配信も考えており、参加者にはより便利な環境が提供できると思っております。

学会終了後の4月20日(日)に、市民公開講座「がんからあなたを守る～知っておきたい放射線診療最前線～」を岡山市内の岡山大学Junko Fukutake Hall(岡山大学鹿田キャンパス内)にて開催する予定です。新設の近代的なホールに多くの市民が参加してくださればと願っております。

5. 今回ならではの楽しい設営と企画

会をリラックスして楽しんでいただくために、景色の良い国際会議場最上階のベイブリッジカフェテリアをJRCラウンジとして参加者に開放する予定です。昼と夜の二部制とし、夜の部はアルコール飲料も提供する予定です、お手軽なチケット制とする予定です。4月12日(土)の早朝は、東日本大震災復興支援チャリティ企画として「モーニング ラン アンド ウォーク」を会場周辺にて開催予定です。岡山市出身の有森裕子さんも参加してくださる予定です。さわやかな春の横浜の朝を走りあるいは歩いて楽しんでいただきたいと考えております。健康のためにもぜひ多くの方々に参加いただけたらと思っております。同日午後には、私の高校時代の同級生である北村晴男弁護士に参加してもらって、特別企画「行列のできる医療法律相談所」も予定しています。松本志のぶさんの司会進行で、北村弁護士、杉村JRC代表理事、それに私が法律論バトルを繰り広げる予定です。会場は国立大ホールですので、興味のある方はぜひおいでください。

6. おわりに

私たちの学会活動が今後も継続発展していくためには、携帯電話に代表されるわが国の「ガラパゴス化現象」を意識して断ち切り、国際化を図らなくてはなりません。しかし、携帯電話について言えば、世界共通的に普及したスマートフォンは、今まで経験しなかったような生活の変化を若者達にもたらし、結果として様々な問題も引き起こしているようにみえます。ものごとの善し悪しを単純に判

断するには難しい世の中となり、放射線診療の将来予測もつきがたいものがあります。しかし、このたび強調する「face to face」という医療の本質は不変であり、学会活動は、新たな医学医療を推進するとともにいつも「人」と「社会」に目を向けた存在であってほしいと願っています。最後になりましたが、貴重な執筆の機会を与えてくださった島津製作所の関係各位に心から感謝申し上げます。

